

CONNECT

地域医療でつながる

米沢市立病院 広報紙「コネクト（つなぐ）」

TOPIX

- ・インタビュー「鏡視下手術への取り組み」
- ・レポート「第18回日本医療マネジメント学会山形県支部学術集会開催」
- ・新病院のグランドオープンに向けて

2024.10

October

Vol.2



撮影：佐藤洋一【大朝日岳山頂付近】

米沢市立病院

患者サポートセンター

〒992-8502

山形県米沢市相生町6番36号

TEL 0238-22-2450(代表) FAX 0238-22-2624

鏡視下手術への取り組み

米沢市ひいては置賜地方の医療関係者の皆様には、常日頃から米沢市立病院外科の地域医療連携に際しまして大きなご協力を賜り、深く感謝申し上げます。2023年11月の新病院の開院に伴い、外科は大きな変化の時を迎えました。元々在籍していた福島県立医大の医師に山形大学からの医師が加わり、当院でも最も大所帯な診療科となりました。2024年10月からは菅野外科部長以下、総勢7名で消化器一般外科から乳腺外科、小児外科まで幅広い分野をこなしていくこととなります。



外科長

矢野 充泰

Mitsuhiko Yano

Q 当院の外科について

当科の最も大きな特徴は鏡視下手術の割合の高さにあると考えています。いわゆる「傷が小さくて痛みが少ない」、低侵襲で審美性の高さも兼ね備えた術式であり、9月に異動された佐藤佳宏医師が最も力を入れていた分野であります。胆石症や鼠経ヘルニアなどの良性疾患に対する手術はもちろんのこと、胃癌や大腸癌の消化器癌においても積極的にこの術式を取り入れ、件数を伸ばしてきました。

Q 鏡視下手術への取り組みについて

私は長年山形大学病院で大腸チーム長を務めさせて頂いておりましたが、同じく鏡視下手術に注力しておりました。



矢野医師（一番左側）

これまでに800件以上の大腸癌手術に参加し、300件以上の鏡視下手術を執刀してきました。現在、山形県において、日本内視鏡外科学会が認定する技術認定医は、大腸癌分野においては三人しかいません。その一人が当院に在籍していることとなります。実際、新病院になってからの大腸癌件数は40件近くになりますが、緊急手術で行った1件以外は全て鏡視下手術を行っております。高齢者が多い当地域においては特に有用な術式と考えております。つい先日は90代の患者様にも施行しており、幸い10日余りで独歩退院されました。また、直腸癌における肛門温存にも積極的に取り組んでおります。これまでは直腸切断術（永久人工肛門）にせざるを得なかった患者様でも、早期癌であれば一時的な人工肛門造設を併施しつつ究極の肛門温存手術と言われるISR（内肛門括約筋切除術）を行うことが出来ます。更には最新の知見を常にアップデートしつつ、外来に来ていただいている山形大学腫瘍内科とも積極的に連携を取りつつ、ステージIVの患者様の治療、延命にも取り組んで参ります。

Q 最後に一言

癌の治療は手術がうまく終わればおしまいというわけではありません。

最低でも5年間の経過観察が必要になります。ご紹介頂いた患者様を、一人でも多く笑顔で地域にお返しし、地域の皆様と共に見守ることが出来るよう外科一同精進して参りますので、今後とも何卒よろしくごお願い申し上げます。



第18回日本医療マネジメント学会山形県支部学術集会開催

メインテーマ

『地域に根ざした新しい医療のかたち』

米沢市立病院に併設しているアメニティセンターを会場に、令和6年10月12日（土）第18回日本医療マネジメント学会山形県支部学術集会が開催されました。当日は青空が広がる秋晴れの中、会場参加者111名、Web参加者50名と多くの県内医療従事者の方々が参加されました。

午前の部は、医療安全・医療連携・地域連携・チーム医療・在宅医療など一般演題14題の発表がありました。日ごろの活動や取り組みをお聞きし、会場の皆さまとの活発な質疑応答もあり有意義な時間となりました。

病院長あいさつ



一般口演発表



村上教授



午後からは、山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座の村上正泰教授をお招きし、基調講演「持続可能な地域医療の実現に向けて」と題し、ご講演いただきました。全国的な少子高齢化・人口減少に伴い生じている医療ニーズの変化、また働き方改革も進められる中で限られた医療スタッフの確保と適正配置のあり方など興味深いお話でした。さらに、米沢市立病院と三友堂病院での機能再編後の検証も踏まえた地域医療のあり方や課題などを、地域の事例を通じてわかりやすくご講演いただきました。

その後のシンポジウムでは、「地域医療を支える多職種連携」をテーマに、県内でご活躍されているシンポジストの方々から発表いただきました。将来を見据えた課題や展望、地域や院内連携の重要性、組織や職種を超えた信頼関係構築、対話の必要性などについて意見交換ができました。医師会をはじめ関係各位のご協力のもと、実りある学術集会となりました。

シンポジウム



新病院のグランドオープンに向けて

第1駐車場の利用方法



昨年11月の新病院開院後、敷地北側の旧病院解体工事や第1駐車場整備工事等が続いていましたが、12月2日(月)にグランドオープンを迎えることになりました。本紙では、新たに整備される第1駐車場の利用方法を下図のとおりお知らせします。なお、より詳細な情報は、広報よねざわ11月15日号に折り込みます。



第1駐車場整備工事の進捗状況

【10月18日(金)撮影】

建物の解体工事は、9月に完了し、並行して行ってきた、第1駐車場整備工事も11月には完了する予定です。

右の画像は、市立病院の屋上から撮影したのですが、手前のアスファルトで舗装されている部分が、上図の乗降場、おもいやり駐車スペースや救急・感染者用駐車スペースになります。

